

# ART designs DAYS

## 暮らしをデザインするアート展

2025.8.22 Fri – 9.7 Sun  
Bunkamura Gallery 8/

### 出展作家紹介

#### 1 明田 一久 Kazuhisa Aketa

1971 群馬県生まれ 1997 大阪芸術大学美術学科彫刻専攻科修了。石や金属を素材とした彫刻作品を制作。憧れのツバメを擬人化したり、愛用のブーツをモチーフに履けそうで履けない彫刻やいろいろな動物たちの彫刻も制作。国内外で、個展やグループ展、公開制作や受賞歴、パブリックコレクションなど多数。



「Monday」黒大理石・黒御影石・真鍮・ステンレス・顔料

##### ■ステートメント

自身が長年愛用するワークブーツ（エンジニアブーツ）をモチーフに制作『週のはじまり Monday お気に入りのブーツで今日も一日ご安全に！』ブーツに留まるツバメは私自身…？ それとも……それは憧れでもある

#### 2 安部 大雅 Tayga Abe

1974 年埼玉県生まれ。個展やモニュメントの制作に加え、フィールドインスタレーション、自治体アートデザイン、ランドスケープアートなど、様々な社会プロジェクトに携わる。



「手にする風景」黒大理石

【個展】2004 年 メディチ家の旧別荘（セラヴェツツァ、イタリア）／2020 年 東京ガーデンテラス紀尾井町／2022 年 川越市立美術館／2023 年 ペルージャのパオリーナ城（イタリア） 他多数

【モニュメント】サルデーニャ島（イタリア）／アッシジのサン・フランチェスコ教会（イタリア）／岐阜県中津川市／千葉県浦安市／東京都月島中央区／宮城県名取市／茨城県ひたちなか市／カッパドキア（トルコ）／愛知県岡崎市／カウナス（リトアニア）／リエバ（ラトビア） 他多数

#### 3 池田 実穂 Miho Ikeda

1978 群馬県生まれ／2003 東京学芸大学大学院美術科修了／2004 イタリア・カッラーラ・アカデミア彫刻科留学（2009 卒業）／2021 初代ヌマタ・アート・アンバサダーに就任／2023 第 26 回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞 入選／2025 企業メセナ群馬芸術文化奨励賞受賞／国内外で個展やグループ展を多数開催

##### ■ステートメント

多版多色刷りの木版画の技法を用いて、自然の情景や、生き物、少女などをモチーフに、抒情的な世界観を色彩豊かに表現する。シンプルで動きのある構図の中にグラデーションや緻密な幾何学模様なども取り入れながら、リズム感と共に情感を感じさせる作風が特徴的。生命そのものの普遍性や人間の心の機微を奥底に据え、詩情性のある作品制作を目指す。



「恵みの風 in Numata」木版画

#### 4 伊藤 博敏 Hirotoshi Itoh

1958 年 長野県松本市生まれ  
1982 年 東京藝術大学美術学部工芸科卒業  
家業の石材店を営みながら石をベースに異素材を組み合わせた作品を制作。  
国内外で個展を中心に作品を発表している



「舐めた奴ら」石、義歯、樹脂

##### ■ステートメント

石材店に生まれ育った私は、大学では他の素材も知りたくて鍛金を専攻した。金属から生まれる作品に刺激を受け、石なら何が出来ののかを彫刻でなく工芸の視点で模索した。店で使用する花崗岩や大理石などの塊からの発想だけでなく、信州の川にある石ころの自然のフォルムを活かすことを考えた。暮らしの中で見慣れた素材と組み合わせることで素材感が変わる。これは日本人の DNA に根付く見立ての楽しさだと気づいたこの頃である。

#### 5 エサシトモコ Tomoko Esashi

1986 年 東京芸術大学大学院保存修復科修了／1998 年 文化庁国内研修／2014 年 カオデカクン東京都主税局、納税期限周知ポスターのキャラクター／2015 年 カオデカクン「あんこ猫」、伊豆大島「椿まつり」60 周年記念キャラクター

##### ■ステートメント

カオデカクンは基本的には 4 サイズの型から粘土制作、テラコッタに焼成し絵の具で彩色するのですが、「何にでも変身できる猫型彫刻」として、季節の行事、伝統文化、飼い猫の注文制作など様々な意味をまとうことがコンセプトです。今回は「暮らしをデザインする」というテーマに沿って、季節に関係なくお部屋に置いて楽しんでいただけるよう縁起のよい吉祥模様を描いて、お雛様の原型である『犬宮』を猫に変身させてみました。



「猫宮」テラコッタに彩色

#### 6 大隅 篤子 Atsuko Ohsumi

東京藝術大学美術学部工芸科（彫金専攻）修士課程修了（1982 年）／神奈川県展、デザインフォーラム入選（1980 年）／国際ジュエリーアート展入選（1983 年）／個展、グループ展（1983 年～1989 年）／小田原城アート NOW 展参加（2017 年～2019 年）

##### ■ステートメント

『編む』という行為は、私にとって幼少時から慣れ親しんだ手作業の一つです。手に持つ素材を蔓に変え器物を編み始めて数十年。現在は主に Random Weaving（みだれ編み）で制作しています。一般的なみだれ編みよりも編み込みの密度をあげ、隙間を少なくするところに独自性があると思っています。それぞれの蔓の手強い癖をなだめるように絡め、少しずつ作りたい形に仕立てていく。とても手間のかかるその工程が面白く、また蔓を手にしてしまいます。



「編む組むカタチ」ブラウンハイン、綿糸、金泥他

## 7 大隅 秀雄 Hideo Ohsumi

1982 年東京藝術大学大学院修了（修了制作買い上げ）。大学院在学中に第2回ヘンリー・ムア大賞展に入選、以後「ちょっと待って」という思いを込め、風で動く作品を制作。【主な展覧会】第6回倉敷まちかどの彫刻展、第24回UBEビエンナーレ、嬉型鋼 - 高雄国際鋼彫藝術節（台湾）ART TAIPEI など

### ■ステートメント

いつどんなふうによってくるかわからない、気まぐれな「風」とつきあいながら、風まかせの動く作品を作っていると、「ま」という言葉が身体からなかなか離れていかない。待つという「ま」、空間という「ま」、休みという「ま」、ものとの「ま」、人と人との「ま」、運という「ま」、間の文化として日本の風土に根付いたものの考え方や暮らし方を手がかりに、表情豊かな「風」を美しくかたちにしてみたい。



「KEHAI "mi"」チタン、真鍮、銅、ステンレス、ヘアリング

## 8 太田 宗平 Sohei Ohta

### ■ステートメント

作品は全て自分の中から生まれる。使うのは心眼。創作はすなわち過去の自分との対話



## 9 大平 實 Minoru Ohira

1950 年生まれ、1975 年金沢美術工芸大学彫刻科卒、1977 年東京芸術大学大学院彫刻科大学院修了、1978 年からメキシコ滞在、1982 年ロスアンゼルスに移り現在に至る、主に木を材料に立体の制作



「Acorn Boy」カシの木にグラファイト

### ■ステートメント

38 年前にメキシコで見たオルメカ文化には大きな衝撃を受け、その印象はいまも日常生活ですれ違う現実の人々の顔に反映されている。それらの表情を鑿で木を彫刻し形にして表面を鉛筆で仕上げていく。鉛筆は最も有り触れた材料ではあるが自分には旧約聖書の 1 章 1 節の神が光を創造する前の闇の黒に思える。

## 10 岡部 稔 Minoru Okabe

1962 年生まれ。2001 年より写真作品で個展を重ね 36 回を数える。書籍の装丁やCDジャケットのデザインやミュージシャンとのライブなどにも積極的に参加。近年は写真以外の分野でも活動中。

### ■ステートメント

景色から気色へ、具象から抽象へ……。人が生きる営みの中で生まれは消えていくモノや道具たち。風土や時間の経過と共に自然へ帰化しようとするモノとの出会いの瞬間。私の作品は自らの感性とカメラの力を借り、新たなステージを模索する試みです。それは意味や必要性から解放され色と形だけの抽象的世界の中で展開して行きます。写真の枠に留まることなく……。



「Photo Improvisation no.2515」和紙にプリント パネル

## 11 OJIYU

イラストレーター兼アーティスト。

1992 年 愛知県生まれ

2016 年 多摩美術大学絵画学科版画専攻卒業  
書籍の装画などのお仕事をを中心に活動。



「Astronomers (天文学者達)」木製パネル

### ■ステートメント

ボーダー（柵）のない、自然体なくヒトをモチーフに描いたり刷ったり作ったり。生きているからこそ、複雑な感情・温度・事象を、ハッキリとしたシェイプと、ポップな色合いで表現する。

## 12 鍛冶 瑞子 Mizuko Kaji

大学、大学院で建築を学び、建築設計事務所に勤務。退社後、文化服装学院にて服飾を学び、ニューヨークにて舞台のコスチュームデザインを行う。帰国後独立し、現在は東京藝術大学大学院美術専攻油画研究領域壁画博士後期課程に在籍。近年は美術や舞台分野で作品を発表。空間として表現することを軸に、建築・服飾・舞台、3つの分野を融合した作品づくりを行っている。

### ■ステートメント

建築・服飾・舞台・美術、様々な経験や表現を融合させ、独自の空間表現を探索している。場所や物事の記憶や感覚そのものを抽出し、光やマテリアルの現象へと変換、空間の中へ表出させる作品を制作している。



「Interlacing Memories」糸、糸

## 13 川合 朋郎 Tomoro Kawai

1976 年 大阪出身 / 2003 年 東京藝術大学大学院修了 【個展】2025 年 アートスペース羅針盤（東京） / 2024 年 さんしんギャラリー善（静岡） / 2023 年 ギャラリーエクリュの森（静岡）、福住画廊（大阪）、NICHE GALLERY（東京 '15 年～毎年）、ギャラリーくさ笛（愛知）他多数 【グループ展】2020 年 Art Interchange 三島・パサディナ姉妹都市交流展（静岡 '19） / 2019 年 春秋展（ALLME ARTSPACE/ 韓国）他多数

### ■ステートメント

藝術とはわからないものがあるということを知る術ではないだろうか。この世はおおよそ知覚できないもので成り立っている。自分本意に理解を急ぐと本当ではない答えを出してしまう。わからないなりに漠然と曖昧な状態を眺めることが知ることの始まりだと思う。



「石に聞く」油彩 キャンバス

## 14 河本 蓮大朗 Rentaro Kawamoto

2017 年横浜美術大学彫刻コース研究生修了。主な展覧会に「自己循環」(GALLERY エクリュの森、2024 年)、「NEWoMan KNIT FESTIVAL」(NEWoMan ART Wall、2019 年)、SICF18 森永邦彦賞 (2017 年)、第2回 CAF 賞 入選 (2015 年)

### ■ステートメント

織物の制作を中心に、染織独自の質感や色彩と、素材が持つ背景やストーリーを重要な要素とし、制作を続けている。作品は裂き織りと呼ばれる技術で作られ、古布や古着などの既製品を織り、新たな布へ再構築する。工業製品や工芸的な手仕事、日用品としての用途を超えて、表現方法として広がる織物の魅力に可能性を見出している。



「IWP #92」織り、刺繍、古着、糸、染料

## 15 久米 圭子 Keiko Kume

1985 年 千葉県生まれ／ 2011 年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程工芸専攻 修了（修了制作 学長賞・審査員特別賞）／ 2014 年 金沢市工芸展 金沢市長最優秀賞／ 2017 年 公益財団法人宗桂会努力賞／ 2019 年 第 35 回淡水翁賞 優秀賞 他受賞多数

### ■ステートメント

生物をモチーフとしたオブジェを制作しています。特に生物全般における内部構造—どんな小さな生物でも持ち合わせている、生きていくための仕組みを意識しています。目に見えない微細で複雑な仕組みにとても神秘的な魅力を感じており、自分がモチーフに対して感じている魅力と同様に、愛でられる魅力を持った作品を制作したいと思っています。



「wonders 0110」真鍮

## 16 今野 絢 Ken Konno

四歳から絵を描き始め、高校で美大受験のため上京。反戦運動に身を投じた後、広告業界を経て 1973 年渡英。皿洗いからスタートし幸運にもアーティストビザを取得し本格的に創作活動開始。当時一番過激なアーティストグループに参加し、欧州からの視点で日本を再発見して行く。帰国後は東洋と西洋、リアルと抽象、人工と自然を融合し、新たな美の調和を追求する。

### ■ステートメント

6 億年前に最初に咲いた花への憧憬。美とは客観的な意識である。私は世界で最初にこの世界に美を創造したのが花だと思ってます。それは今まで植物は蕨類で孢子を飛ばして子孫を増やし繁殖してきた。それを花と言う美しい造形を用いて虫や鳥を呼び雌蕊に雄蕊を受粉させて繁殖する術を得た。私は美しいと言う存在が出現した最初の花を思い描き絵にしている。



## 19 櫻井 伸也 Shinya Sakurai

1981 年 広島県生まれ／ 2004 年 大阪芸術大学芸術計画学科卒業／トリノ・アルベルティーナ美術アカデミー舞台美術科入学／国内外で個展、グループ展を開催。ファッション、ワインラベル、インテリア等のデザインコラボレートも手がける。



「Shower of Love」Mixed media

### ■ステートメント（作品説明）

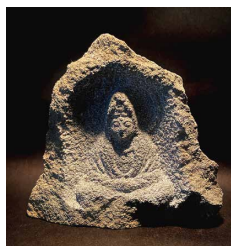
私の作品は、キャンパス、又は、染色された布の上に油絵の具と樹脂を混ぜたもので彩色、描かれています。Shower of Love, Love from Hiroshima, Losve Song シリーズでは、ハートがアイコンとしてカラージュされています。Love Pool シリーズは、ピースマークがアイコンとして描かれ、United colors シリーズは、十字架やボタン、マリアのメダル等が、アイコンとしてエンボスされています。

## 17 齋木 三男 Mitsuo Saiki

1975 年群馬県生まれ。伝統的な手彫りでの石彫を基本に、石仏やモニュメントを制作。主な仕事や活動に、タイ・アメリカ・メキシコでのアーティストインレジデンスなど。中之条ビエンナーレ 2015、2019、2025 実行委員長。一級石材施工技能士。

### ■ステートメント

硬いけど柔らかく、冷たいけど温もりを感じる素材。長い時を封じ込めた石。地球のかげらが土に帰る途中、石ころを眺めていると現れてくる、石の記憶に眠る仏様を呼び起こす日々です。



「山神様」安山岩

## 18 榎 貴美 Kimi Sakaki

1983 和歌山県生まれ／ 2012 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻美術研究領域 修了。「こども」という存在（アイコン）を、様々な事物とともに、表現の器、鏡のような装置として描く。国内外で展覧会等多数。クリエイティブユニット S+N laboratory を結成。2019 年、作品集「KIMISAKAKI twinkle」を出版

### ■ステートメント

自然のみせる美しさや厳しさ、そこに流れる空気や音や時間等の日常。まわりに存在する境界と、寝る前に聞きたくさんの物語。様々なものが呼応して混ざり合った様な感覚を楽しみながら幼少期を過ごす。



「Little twinkle 2」パネルに油彩・アクリル

## 20 白砂 勝敏 Katsutoshi Shirasuna

美術家・演奏家。2008 年モンミュゼ沼津・沼津市立美術館にて初個展（館企画）その後 2025 年 3 月末まで美術館・ギャラリー等で企画個展 54 回グループ展 126 回。20 代前半に人生は一度きりだから「やりたいことしかやらない」と決め 30 年が経ちました。20 代は放浪に費やし、35 歳の時に初めて行った美術館で声をかけられ個展を開催して頂きました。それ以来、アートが生業となり、何かを創る事が楽しくて楽しくて仕方がなく、寝ても覚めても創り続けています。



「白砂式花器・碧玉」陶器

### ■ステートメント

私はそこに在る生命体を描くのではなく そこに在る生命力を描きたい  
I don't depict the life forms, but the life force that exists there.

## 21 杉山 功 Isao Sugiyama

1977 年東京造形大学彫刻科 卒業。1990 年カラー美術アカデミー卒業。主にヨーロッパ、アメリカにおいて個展、アートフェアを中心に作品を発表。

### ■ステートメント

今の私のテーマは日本人の神聖性、集合意識と集合無意識です。



「SANTUARIO（神殿）No.488」  
PLA 樹脂（ポリ乳酸）

## 22 鈴木 生 Sei Suzuki

1984 年 静岡県生まれ／2013 年 東京藝術大学大学院 鋳金専攻修了、東京藝術大学卒業・修了作品展（藝大美術館・東京都知事賞受賞）／2020 年 鈴木生個展（創英ギャラリー 銀座）／2021 年 CalendArt 展（GALLERY エクリュの森）他多数【モニュメント】狩野川・鮎の友釣りの碑（狩野川記念公園・伊豆）【パブリックコレクション】始まりのかたち 2018-IV 株式会社日本ビッド（大分）



「始まりのかたち 2018-IV」木

## 23 高崎 紗弥香 Sayaka Takasaki

1982 年東京都生まれ。主な個展に GALLERY エクリュの森（静岡）、MEDIA SHOP（京都）、六本木ヒルズクラブ（東京）など。主なグループ展に足利市立美術館（栃木）、Bunkamura Gallery 8/（東京）、スパイラルガーデン（東京）など。主なパブリック・コレクションに足利市立美術館、PHOTO MUSEUM 沈黙の海へ works by Sayaka Takasaki（愛知）など。



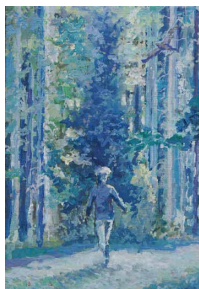
「A Place for Prayer #1」写真

### ■ステートメント

年の半分、山に身を置き撮影する。山を歩き身体に負荷がかかるにつれ、いつの間にか思考が消え、自分が空のうつわであるような感覚になる。撮影する対象を探し求めるのではなく、向こうからくるものを受け入れシャッターを切る。場に感応した瞬間に与えられた恩恵を、そのまま差し出すような思いで作品にする。

## 24 高松 明日香 Asuka Takamatsu

1984 年香川生。2009 年尾道市立大学大学院修了。現在は香川県を拠点に活動。主な展覧会に 2024 年「AM 倉敷 vol.17 高松明日香一光は世界を駆け巡る」（大原美術館本館・岡山）



「肺の門 The Lung Hilar」キャンバスにアクリル絵具

### ■ステートメント

既存の映像や画像に触発されながら、それらの図像を絵画に再構成することで生まれる普遍性を、アクリル絵具で追求しています。

## 25 竹内 由美 Yumi Takeuchi

武蔵野美術大学 短期大学部 空間演出デザイン科卒業。インテリアデザイナーとして活動する中、「本当の和」について探究を重ねる。その結果、古から日本人が育んできた調和の精神の奥深くに「願いの光」があることに気付く。以降、「願いの光」をテーマに照明作家としての活動開始。現在は、コーチングの手法も取り入れ、メッセージとともに光を発信しています。

### ■ステートメント

「魂を込める」という言葉があるように、昔から私たち日本人には、（もの作りや、日常生活の営みに至るまで）心奥深くにあるエネルギーを巡らせ、宿す、という所作が当たり前のようにはありました。そのエネルギーのもととなっているのは、命に生まれ持った「願い」です。本当は誰もの中であって、どんな時も光のように輝いていますが今、ほとんどの人が忘れてしまっています。私がつくる光は全て、この「願いの光」を呼び覚ますためのものです。日々の暮らしの中に、自分の光を感じる時と空間をもたらし心深く、魂から満たされる人生へと導きます。そうやって一人一人が本当の願いを生きることが、調和の世界へと繋がっていくからです。



「ヒカリビヨウ Honey Flow #new sky」木枠（ヒノキ）オリジナル和紙（コウソウ）LED

## 26 田中 毅 Tsuyoshi Tanaka

1977 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。【個展】2019 川越市立美術館、2016 現代彫刻美術館（目黒）、土日画廊（東京）他多数【グループ展】2025 彫刻 ロスト・ワールド（高島屋）、1984 現代のユーモア展 埼玉県近代美術館 等【受賞】2015 第 26 回 UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）、1985 神戸具象彫刻大賞展 大賞 等【コレクション】おかしき世界こども美術博物館、宮崎空港ビル、等全国約 115 か所。

### ■ステートメント

自然に教わりながら作ってますが思い付いたかたちは書き留めておいて、次、何作ろうかなという時はその中から選んで作っています。想像上の変な虫でも実際に似たようなのが居たりとか見る人があれににるとか想像を膨らませて感じてくれたりするのが楽しみでもある。



「はだかんぼんが行く」黒御影石

## 27 田中 康二郎 Kojiro Tanaka

1953 年福岡県久留米市に生まれ、1973 年藝大入学以来石彫を制作。御影石の結晶構造、その存在感への興味が深く、制作した作品の周りの空間を美しく観ることを主題として活動しています。抽象的な作品は石材の磨き面と割り面との構成を考慮することが制作思考の中心となり、その作業の段取りを決めたのち制作して行きます。



「Ohne Titel '24-03」赤御影石、黒御影石、エメラルド・パール、ステンレス・ボルト

## 28 ちばえん En Chiba

1989 年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒。現在 静岡デザイン専門学校、常葉大学非常勤講師。静岡、東京、神奈川等で個展開催。オブジェや布人形、パフォーマンス等、ジャンルにとらわれず制作。雑誌や web のイラスト、新聞や書籍の挿画なども手がける。2010 年 PONTON 表紙大賞受賞、2013 年 静岡新聞夕刊連載小説挿絵、2022 年 絵本出版等。

### ■ステートメント

子どもの頃から妄想の中で遊ぶこともでした。絵を描くことは、妄想の世界を表出して遊ぶこと。その楽しみはジャンルを超えて、布人形作りやパフォーマンスアートに広がります。布人形は、着せ替え人形の記憶。思い出にまつわる布や記憶を組み合わせる遊びがやめられません。モチーフは大好きな『天狗』さんです。



「天狗ちゃん」布、古布等

## 29 富田 菜摘 Natsumi Tomita

ものには捨てられるまで、それぞれのストーリーがある。誰かが乗っていた自転車、古い調理器具、壊れた電子機器、日々何気なく使われる様々なものたち…

その表情からは、新品にはない深い味わいを感じる。使い込まれた風合い、錆、日に焼けて褪せた色。一つとして同じものはなく、優しく、強く、温かい。そういったものを集め、つなぎ合わせ、新しくいきものにしている。



「黄衣」 ミクストメディア、金属廃材

## 30 長友 由紀 Yuki Nagatomo

友禅染めを用いて、市井の人々が働き、学び、遊ぶ様子を描くことで、「伝統と現代の共存」を目指す作品づくりをしています



「東海道ひいながた〜沼津あんど原〜」  
絹に友禅染め

## 31 長根 寛 Hiroshi Nagane

1967年青森県八戸市出身。デザインマネージャー、照明デザイナー。【主な仕事・受賞】高野山開創 1200 年記念 総本山金剛峯寺「蟠龍庭」照明デザイン／浅草神社（三社様）『夏詣』総合演出デザイン／Good Design 賞 2007 中小企業庁長官特別賞／有機 EL 照明デザインコンペ最優秀賞



「絹花 -KENKA-」 スチール、正絹

### ■ステートメント

絹花 -KENKA- は、日本の伝統工芸である組紐をシェードに仕上げた照明器具です。着物に華を添える帯締・帯揚、羽織紐などの数々の和装小物として長年愛されてきた歴史ある組紐は、明治 22 年に創業された株式会社龍工房で作られています。空間に華を添えるペンダント照明になりました。和室にはもちろん、現代的なリビング、ダイニング、寝室などにもモダンな雰囲気を演出します。

## 32 長野 順子 Junko Nagano

1966 年 群馬県出身。1991 年 東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了。5 年間の設計事務所勤務の後、神保町の美学学校にて銅版画を学ぶ。1998 年 世田谷区民ギャラリーにて初個展。以降、東京、大阪、群馬を中心に各地で個展を開催。



「Wild rose」銅版画

### ■ステートメント

自然に恵まれた環境で生まれ育ち、現在も野生の動植物に親しむ日常を送っています。豊かな自然の美しさは常に私の想像力を刺激し、作品制作の糧となっています。特に四季折々の光が彩る光景は空想の世界への入り口。銅版画はモノクロームで影を描くことによって幻想的な光を表現する、私の創作活動に欠かせない技法の一つです。

## 33 野村 絵梨 Eri Nomura

東京都生まれ。2019 年 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。生活から生まれる痕跡や汚れをデフォルメし、かわいくポップに表現することで、実生活では消されていく垢のようなものに焦点が当たるよう制作しています。また、彫刻の素材にはスタイロフォームという素材を使い、物量と存在の軽さを併せ持つ軽やかな彫刻を目指しています。

### ■ステートメント

生活の中に蓄積される埃や手垢、劣化の痕跡など、一見ノイズのように見えるものに焦点を当てた作品です。そうした痕跡を含む日用品を軽量で脆いスタイロフォームで再構築し、CG やドローイングの工程を経て、ポップで柔らかい形状へと変化させています。実物のモデルよりも丸く解像度の粗いおもちゃのような形にデフォルメすることで、汚れや垢といったノイズごとポップな形に変形させ、それらに視線が集まることを目指しています。



「本 #3」 スタイロフォーム、軽量パテ、ペンキ

## 34 羽石 知代 Tomoyo Haneishi

筑波大学芸術専門学群卒業、Rome University of Fine Arts RUFA 舞台美術マスターコース終了。空間美術をテーマに作品を欧州、日本で発表。舞台美術製作、ギフト商品開発の分野でも活動する。2011 年イタリア Sulmona 第 38 回国際コンテンポラリーアート賞 総理大臣賞 受賞。同展 2014 年 Sulmona 賞受賞。2015 年宇都宮河内庁舎エントランスパブリックアート制作。

### ■ステートメント

2025 年、イタリア、トスカーナ地方の職人とコラボレーションしてクリスタルのガラスの制作を開始。美しいイタリアの田園風景と自然をイメージしてつくる透明で重なる色のガラス。そんなキラキラしたガラスたちを生活の一部に取り入れて毎日の暮らしを大切に、特別に過ごすことができたかと考えて制作しています。自然とのつながりを感じ、四季の変化を味わい、日々平和に生活できる尊さを毎日感じることができそうです。



「A Kapo」クリスタル

## 35 hiraco

静岡生まれ。2016 年武蔵野美術大学 建築学科卒業。在学中撮り溜めた写真を元にシルクスクリーンの作品制作を開始。広告会社にて一般企業の広告関連の空間デザインプランニングに従事していた経験を持つ。



「POP UP オアシス」シルクスクリーン

### ■ステートメント

大学の専攻や社会人としての仕事経験など建築空間分野のバックグラウンドがありながらも、三次元的な立体物としての建築物ではなく、二次元的な平面として建築物を捉え直しグラフィカルな表現を追求。作品のモチーフとなるものは全てどこかに実在する風景をベースとしており、どこにでもあるようなごく一般的な日常の風景だが、その中から見慣れない風景が現れる瞬間を切り取り作品にしている。

## 36 びわゆみこ Yumiko Biwa

武蔵野美術大学 造形学部 空間演出デザイン学科 卒業。2007 年頃よりミウラ折りを応用した独自の手法で、光の彫刻を開発・制作。【主な展示】KITTE 丸の内 (2022), KITTE 名古屋 (2020), AC ホテル東京銀座 (2020 より 常設), Mesm Tokyo Autograph Collection Hotels (2020 より 常設), 横浜みなとみらいホール (2019), 阪急百貨店うめだ本店 (2017)

### ■ステートメント

一つ一つ「ミウラ折り」という手法によって折られた乳白色のフラワー・エレメント。それらが集まって織りなす独特のマチエールは、暮らしの空間に上質な華やきを与えます。植物のように自然な光りを放つ「ミウラ折り・ライティングオブジェ」を、あなたの暮らしの中に、ぜひ取り入れてください。



「miura-ori Lighting Object UMBEL」  
樹脂シート他

## 37 藤井 慎介 Shinsuke Fujii

1968 年 静岡県生まれ。1991 年 武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。建築設計業務を経て長野県松本技術専門学校にて木工を学ぶ。

【主な展示・受賞】2007 年 国展「工芸部奨励賞」／2010 年 日本伝統工芸展「日本工芸会新人賞」／2015 年 テレビ東京「クロスロード」／2016 年 BS 朝日「緑のコトノハ」／2020 年 静岡県文化プログラム／2020 年 革新する工芸「手の愉悦」展／毎年個展開催

### ■ステートメント

木を削り抜き、自在にかたちを削り出す「削り物」の作業をベースに椅子や器などの木工作品を制作しています。長く仕事をきてつくづく思うのは、この作業は私にとって特別な精神活動なんだろうということです。木との出会いがリアクションとして、私を制作に向かわせます。



「右：ハイバックチェア 左：サイドテーブル」 榎

## 38 本郷 芳哉 Yoshiya Hongo

1982 年 埼玉県生まれ。2009 年 東京藝術大学美術研究科 修了。主にアルミニウムや鉄、ステンレス鋼などの身近な金属を用いた彫刻作品を制作。【近年の展示】「SPIRIT WATER」(代官山 T-Site Gallery 2025)、「越後妻有雪の様相 I」(越後妻有里山現代美術館／2023)、「KYOTO Ninnaji Omuro Art 4.8 Project 本郷芳哉」(御室仁和寺 2022) など。



「Appearance」アルミニウム

### ■ステートメント

私は、人を世界のひとつの要素として含めた世界の在り様について、「境界」や「時間」等の視座から彫刻を通じて思索しています。それは「存在すること」や「生きること」への根源的な問いと、実感をもって対峙することに他なりません。《Appearance》では、アルミの熱による変容を制作に取り入れ、存在とその周辺との境界を滲ませていきます。私は世界と私たちの間に元来ある繋がりを現し、それを辿って私たちの意識が拡がっていくことを期待しています。

## 39 ミカヅキフタツ mikaduki2

木彫家、木彫あやつり人形師。イラストレーターとして活動しながら人形アニメーションを制作。2010 年にチェコでマリオネット制作を学び、2013 年より作家活動を本格化。2018 年 クラフトアート創作人形展で四賞を同時受賞、文化庁メディア芸術祭では映像作品で新人賞を受賞。近年は SNS でも注目を集めている。

### ■ステートメント

ミカヅキフタツは、木彫りのマリオネットを通じて、物語と現実の狭間に命を宿す表現を行っている。創作は物語を紡ぐことから始まり、木や石、革、麻などの自然素材に丁寧な手仕事を重ねることで、マリオネットは生きる存在へと変わっていく。彼らは眠りの中で時を待ち、糸が引かれる瞬間に現実へと歩み出す。観る者の想像力と共鳴しながら、日常に静かにファンタジーを差し込む、そんな存在を目指して制作している。



「盲目の魚」  
木、スピリットクオーツ、革、金属、麻

## 40 横井山 泰 Yasushi Yokoiyama

1976 静岡県伊豆の国市生まれ／2003 多摩美術大学大学院美術研究科油画専攻修了／2003「TAMA・デ・アート」奨励賞／2004「第7回岡本太郎記念現代芸術大賞展」特別賞／2005「シェル美術賞 2005」本江邦夫審査員奨励賞／2010 文化庁新進芸術家海外研修員として1年間パリに滞在

### ■ステートメント

「とほけた動物」「ドロツと不安な人間模様」鳥観図で町を描く「CITY」のシリーズを国内外に展開、共通して「観えたもの」を描いています。今作は亡くした愛犬が仲間とパーティしている様子を描いた作品です。



「いい夜」Color Pencil on Paper

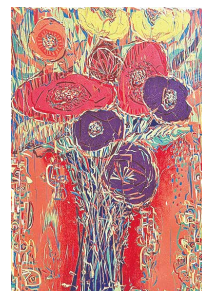
## 41 李元淑 Lee Wonsuk

2014 年 多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、博士号取得【個展】34 回 (日本、ドイツ、韓国、中国)【公募展】2019 年第 16 回 南島原市セナリヨ現代版画展 セナリヨ大賞／2011 年第 79 回日本版画協会版画展 日本版画協会賞

### ■ステートメント

沈黙でいっぱい宇宙は私の小さなジェスチャーと息吹に耳を傾けてくれる。深い海の中から聞こえてくるささやき、荒い風の歌は世界に向かった私の話を抗弁する。今日も自然は私に堪えきれない多様なジェスチャーで近づいてくる。そしてその自然と私は一つになる。

このすべての表現は結局私の自画像になる。



「Nature\_Fragrant bloom」  
woodcut